



親世代から受け継いだ技術を基本に 新しい発想を加えた果樹園づくり

柿園経営 田主丸町 右田 英嗣 さん (24歳)

技術の継承と新たな挑戦

右田果樹園は、祖父の代から約90年、玄関横には樹齢380年の柿の高木がそびえる、歴史ある果樹園です。50アールの果樹園にはゴミひとつ無く、きれいに管理されており、観光柿狩りには、保育園、小学校から老人ホーム、障がい者施設などをはじめ市内外から年間数千人の人が訪れています。

大学で「バイオセラピー（人と生き物との共生と癒し）」を学んだ右田英嗣さんは、親世代から受け継いだ技術を守るとともに、農業を通してお客さんの心を癒したいと考えています。そのため、観光農園を都市に生活している人々が農村に足を運び、農業の楽しさを伝えるひとつの手段として捉え、将来は一年を通して観光農園に人が集う仕組みを作りたいと考えています。

農業は楽しくてしょうがない。

「天候に左右され、悔しいこともあります。毎日が楽しくてしょうがない。」と英嗣さんは言います。平成23年は長雨の影響で、多くの園が炭そ病の被害を受けました。病気を防ぐには、毎日園に出て日々の管理を行うことが重要。だから、体を鍛え、自分の体調管理に気を配っています。

地域の魅力を 守りたい

4日クラブやJA青年部の活動を通して、地域のつながりを大切にしている英嗣さん。田主丸町の果樹園に後継者が少ないため、地域全体で荒廃園の発生を防止し、緑豊かな地域の魅力を守っていききたいと熱い想いを語ってくれました。

